

令和5年度 因島北認定こども園の取組

1 因島北認定子ども園教育・保育目標

『心も身体もたくましく健やかな園児の育成』
 ～安田式体育遊びを通して～
 (1) 感じる・気付く力 (2) うごく力 (3) 考える力
 (4) やりぬく力 (5) 人とかかわる力

2 めざす子ども像

主体的に活動する子

3 各年齢の目標

年齢	目 標 (数字は1の項目との関連)
0歳児	○快適な環境に配慮し、安心して過ごせるようにする。 ○一人一人の生活リズムを大切に、生理的欲求を促す。 ○特定の保育者との愛着関係のなかで、情緒の安定を図り、健やかな成長を育む。(1)(2)(3)(5)
1歳児	○一人一人の甘えや欲求を十分満たし、ゆったりとしたかかわりのなかで安心して過ごせるようにする。 ○身の回りに対する興味や関心を大切に、保健的で安全な環境のなかで、十分探索活動ができるようにする。 ○保育教諭が仲立ちとなって一緒に遊び、友だちとのつながりが楽しめるようにする。 ○保育教諭や友だちのまねをすることや、食事・着脱・排泄など身のまわりのことを自分でしようとする気持ちを大切にする。(1)(2)(3)(5)
2歳児	保育教諭に受容され、安定したかかわりのなかで自分を表現しながら、保育教諭や友だちをモデルとして育つ。 ○簡単な身の回りのこと(食事・排泄・着脱・睡眠など)が、自分でできる。 ○からだを使ってのあそびや表現することを楽しむ。 ○保育教諭を仲立ちとして、言葉のやりとりを楽しんだり友だちとかかわって遊ぶことを楽しむ。(1)(2)(3)(5)
3歳児	○保育者との信頼関係をベースにして、集団生活の心地よさを感じる。 ○身の回りのことができるようになったことに喜び、自分でしようとする。 ○友だちと関わるなかで、相手の気持ちに気づいたり、一緒に遊ぶことの楽しさを知る。 ○生活に必要な言葉がある程度わかり、自分の思いや感じたことを言葉で伝えようとする。(1)(2)(3)(4)(5)
4歳児	○身についた習慣を確かめながら、自分でできる喜びを持ち、生活していく。 ○認め合い励まし合うなど関わり合う関係を広げ、集団で行動することを楽しむ。 ○いろいろな活動を通して、経験したことや思っていることを聞いたり、話したりする。 ○生活や遊びを通して、達成感を味わい自信をもって行動する。(1)(2)(3)(4)(5)
5歳児	○自分でできることの範囲を広げながら、基本的な生活習慣が身につく。 ○仲間の一人としての自覚をもち、意欲的・創造的に生活やあそびに取り組む。 ○豊かな感性が育ち、思いや言葉で表現したり、人の思いも考えながら行動する。 ○社会生活に必要な習慣や態度が身につき、主体的に行動する。(1)(2)(3)(4)(5)

4 令和5年度重点取組(事業計画から)

- 危機管理
- 教育・保育内容の充実
 - ・安田式体育遊びの活用
 - ・因北校区の子どもの育成に向けた取組の充実
 - ・業務の効率化
 - ・職員の資質・能力の向上
- 地域の教育力の活用
- 環境構成の工夫

5 評価項目の達成及び取組状況

※網掛け…重点取組に係る項目

A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが成果は十分でない D：取組が不十分である

	評価項目	内容	結果	説明（前期）
1 子どもの発達援助	①発達援助の基本	○一人一人の園児の発達状況に配慮した指導計画を作成し、定期的に評価を行い、その結果に基づき指導計画の見直しを行って実践に活かす。（PDCA）	B	・子ども達の姿から年、月、週の計画を作成して実践してきた。週ごとの振り返りを学年間で連携して次の実践に活かすようにしている。 ・子ども達がどのように育っているのか評価しながら次の活動の工夫をし、遊びをつなげ広げていきたい。
	②健康管理・食育	○一人一人の実態に応じた健康管理を行う。 ○食育年間計画を基に、意欲をもって食にかかわる経験を積み、食事を楽しむ子どもに育てる。	B	・保護者に記入していただく健康カード、園児の表情、様子から健康状態を把握し対応してきた。 ・栽培した野菜でクッキングしたり給食献立を三色食品に分類して年長児が給食放送を行ったりして食への興味を高めるように取り組んだ。個に応じて給食の量を調節するなど楽しく食事をすすめる園児も増えている。
	③教育・保育の環境と内容	○園児が安心して安全に過ごす環境を整える。	A	・遮光テントの設置により、遊ぶ環境整備を進めた。安全点検の他にも、危険な箇所等に気付いた際は、速やかに対応して園児が安心して過ごせる環境づくりに努めている。
		○園児が主体的に活動できるように環境構成を工夫する。	B	・パーテーションなどを利用して遊びのコーナーを作ったり子どもの動きに応じてコーナーの配置を考えたりしたことで、子どもが遊びに集中することもできている。 ・子どもが落ち着いて安全に過ごすための整理整頓や遊びを次の展開へと広げるための環境の工夫がさらに必要である。
		○安田式体育遊びを基盤に主体的に活動する子どもを育てる。	B	・学期ごとに取組を見直し、日常的に体育遊びを行うことで楽しんで体を動かしている。友達のことを気かけながら楽しもうとする姿も見られている。 ・めざす子どもの姿を職員で共有しながら、どのような遊びをどのように取り入れていくか、意見を出し合いながら取り組んでいきたい。
		○遊びを楽しむ子を育てるために個の状況に応じて働きかけや援助を工夫する。	B	・子どもの状況を見ながら遊びに夢中になれる子どもを目指して取り組んでいる。保育教諭も一緒に遊ぶことで遊びが広がるように働きかけもしてきた。
	○地域の教育力を活かした教育・保育を計画・実施する。	A	・地域の人材を活かした活動を計画的に取り入れた。 ・地域の方々に見ていただいたり触れ合ったりすることを通して、人とつながりかかわることや楽しさを味わわせていく。	
2 小学校との連携	①園・小連携、接続	○アプローチカリキュラムの見直しをしながら取組を進める。	C	・小中へと育ちをつなぐ意識はもっているが、カリキュラムの見直しが不十分である。将来に向けて育みたい力を園でどのように取り組んでいくのかを職員で共有していく。
	○小学校への接続を意識した連携・取組を行う。	A	・保育所、小学校との因北プロジェクト会議を計画的に実施して取組を進めてきた。小学校や保育所、中学校との子ども同士の交流も実施し、子ども同士のつながりももてるようになってきた。就学への不安をやわらげる効果も実感している。	
3 子育て支援	①保護者との信頼関係	○保護者との連携や情報交換を行いながら教育・保育に関する理解を得る。	B	・送迎時等を利用して日々の子どもの様子を伝えている。個人懇談で保護者の思いを聞いたり園の取組を伝えたりしている。 ・保護者懇談会では、育児の悩みや不安なども話し合い思いを共有できるように進めている。
	②地域の子育て支援	○地域の子育て家庭への支援を行う。（園庭開放の再開）	B	・園庭開放を月1回実施（再開）できた。毎月楽しみに来てくださる家庭もある。9月には8家庭の参加があった。 ・地域への子育て支援を今後どのように進めるか考えていく。
4 子どもの安全	①危機管理	○避難訓練や交通安全指導を計画に基づいて適切に実施する。 ○月1回の安全点検などにより、危機を回避する体制をつくる。 ○危機管理マニュアルに基づいた研修を実施することで職員の危機対応力を高める。	A	・計画的に確実に実施している。実施後の振り返りを次の訓練や指導の充実、職員の危機意識の向上につなぐことができるようにしなければならない。 ・年度当初、安全点検の方法・内容を見直した。多くの職員が点検に関わり、危険箇所等への対応が早く確実にできるようにしている。 ・ミーティングで「本日のヒヤリハット」を出し合っている。
5 運営管理	①組織運営	○保育・教育目標に基づき、職員が意識統一のもと協働する ○職員の資質の向上を図る。 ・教育・保育目標の具現化に向けて園内研修を工夫する。	B	・年間計画に沿った研修と必要に応じた研修を実施した。毎月の職員会議に研修を取り入れるようにした。他にケース会議、担任会議、学年会などで職員が共通認識を持てるようにしている。内容の工夫が必要である。 ・職員主導で体育遊びの研修をスタートさせることができた。
	②サービス管理	○職員が自身の責務や職場での立場を理解し、協働して運営にかかわる。	B	・サービスに関して計画的な研修が必要である。 ・初任者（経験が少ない職員）研修の実施や職員の協働性を高めていく取組を進める。 ・週案の記録部分の記入の仕方を整理した。保育総合支援ツール（ICT）の導入を進めている。

4 第三者委員からの目標や計画の総合的な評価結果と今後の課題

結 果	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭が余裕を持って園児が整った環境構成のもとに自由遊びを伸び伸びとしていたのが印象的だった。 ・子ども達が楽しそうで話しかけるとニコニコしていてよかった。 ・重点取組を設定することで教育・保育活動にメリハリが生まれ、目標も明確となり、できたこと・できないことが日常的に意識でき、自己評価も適正にできる。 <p>〈教育・保育内容の充実〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節を意識した年間行事を基に、刺激的な環境構成を工夫されている。 ・地域の人材を生かした行事についても単発の“点”としての実施でなく、“線”や“面”として、経験や体験を広げていくことが良い。 ・「安田式体育遊び」を発展として「樹形図」を掲示して日常的な生活との接点と関連させながら園児の主体性を育むことに力を注がれていることが伝わってきた。 <p>〈小学校との連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校区より進んでいる園・小（中）連携について、次年度導入予定の「因北校区コミュニティスクール」と繋がり発展・深化させてほしい。 <p>（読めるけど書けない、文字に関心がないといった小学生が増えているという実態についても）</p> <p>〈子どもの安全〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や安全指導を計画的に行うだけでなく、報道ニュースの紹介での事例研修や日々のミーティングでの「ヒヤリハット」研修等で子どもの安全指導體制や指導が適正になされている。 <p>〈職員の資質・能力の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で教職員主体での研修や協働性を高めようとする関係が生まれつつあると思われる。業務整理や改善意識を持ちながら働きやすい職場づくりに努めている。 ・園長の思いの発信（いろいろ・一期一会）は資質・向上の一助となる。 <p>様々な視点から各年齢に応じた適正な教育・保育活動や子どもの安全・安心な施設として保護者・地域に信頼を得る運営経営がなされていると判断する。</p>